



# 「知への初々しい憧れと畏敬の念」

～子どもの学びを支える教師力・学校力の強化～

校長通信第122号

令和4年11月1日

## 5年生「脱穀・もみすり体験」



バケツで育てた稲の水の管理をし続けてきた5年生。穂が実り、黄金色になったため9月の終わりに稲刈りをしました。そして、教室内ですが稲を干していました。

10月28日、バケツイネの育て方を指導してくださったパルシステムの方が再度ご来校され、脱穀ともみすりの指導を行ってくださいました。誠にありがたいことです。

使う物は軟式ボールとすり鉢。軟式ボール？・・・なぜ軟式ボールを使うのか？担任の先生の問いに子どもたちは、悩みます。理由は簡単です。軟式ボールはもちやすく、力も丁度に入れやすいということです。別にすりこぎという道具でもいいのですが、使い勝手がいいのということです。すり鉢の中で、ボールでこすってもみ殻と玄米に分ける体験をしました。なかなか大変です。その後も玄米だけを取り出すのは大変。こういった原体験は、豊かになった今、ぜひとも子どもたちには体験させたいものです。道具を使った仕事は労働となりますから、キャリア教育につながります。穂がなくなったイネはわらとして取っておきます。もみ殻は、火種として、私（校長）の実家では使ったなと思い出しました。

子どもたちが育てたイネはバケツ1杯分。そこから、ごはん茶碗にして米は1杯分。農家の苦労が分かった5年生でした。

